

外為マンスリービューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/05/01

米量的緩和の縮小・停止観測の強弱に注目

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	米金融政策への期待修正	2 - 3
		予想レンジ: 95.00 ~ 100.00 円	
カナダ/円	➡	北米経済がカギを握る	4 - 5
		予想レンジ: 93.50 ~ 99.80 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



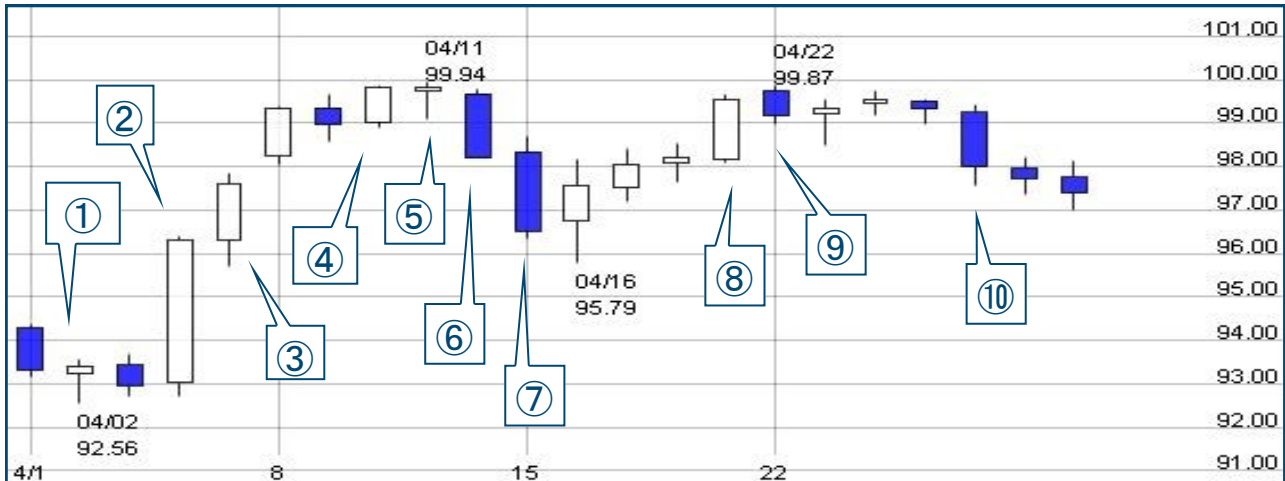
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	94.29円	99.94円	92.56円	97.40円



- ① 2日、日経平均株価が大幅安になったことや、日銀による大幅な金融緩和が3-4日の会合ではなく26日の会合にまで持ち越されるのではとの観測が広がったことが重石となり、92.56円の安値をつけた。
- ② 4日、日銀は「長期国債の月間の購入額をグロスで4兆円から7兆円へ変更。対象期間は40年債まで」「マネタリーベースは2013年末に200兆円、2014年末に270兆円になる見通し」等とする質的・量的緩和を導入。市場の予想を大きく上回る規模の金融緩和を受け、NY市場にかけて96.41円まで円安が進んだ。
- ③ 5日、東京市場で国債先物が大幅安となったことや、米3月雇用統計にて失業率は7.6%と予想(7.7%)より強いものの、非農業部門雇用者数が8.8万人増と予想(19.0万人増)より大幅に弱い内容となった。これを受けて一時ドル/円は下落したが、円の先安観が強い中で反発し、97.83円まで値を伸ばした。
- ④ 10日、黒田日銀総裁が金融緩和策について「現時点で取り得るあらゆる手段を講じた」「一般的に緩和策をとれば通貨が下落するが、いつまでも続くわけではない」等と述べたことが伝わると98.95円まで下げたが、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録で「数人のメンバーは年末までの量的緩和(QE)の停止を想定」「複数のメンバーは今年中頃にQE縮小を想定」との見解が示されると反発した。
- ⑤ 11日、前日のFOMC議事録を受けて米長期金利が上昇し続ける中、99.94円までドル/円は値を上げた。
- ⑥ 12日、米3月小売売上高が前月比-0.4%、米4月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値が72.3とそれぞれ予想(±0.0%、78.6)を大きく下回ったことを受けたドル売りが入った上、米国の為替報告書にて日本の通貨政策を注意深く監視する」「日本は通貨安競争を避けるべき」などの記載があったことを受けた円買い戻し等により、ドル/円は大幅に下落した。
- ⑦ 15日、NYダウ平均や商品価格の下落を受けてドル/円は軟調だった上、引け間際に米ボストンにて爆弾テロが発生するとリスク回避の円買いが強まった。
- ⑧ 19日、20カ国・地域(G20)財務相・中銀総裁会合に出席中の麻生財務相が「日本の政策に異論は出なかった」「国際通貨基金(IMF)のラガルド専務理事は日本の金融政策を評価」等と述べたこと、松尾生保協会会長が「外債を買い増す事が選択肢」と発言したこと、黒田日銀総裁が「日銀は物価目標を達成するために緩和策を続けてゆく」などと発言したことを受けてドル/円は99.68円まで上昇した。
- ⑨ 22日、前週末に発表されたG20財務相・中銀総裁会合の声明で日本の政策批判がなかった事を受け、週明けのドル/円は99.87円まで上昇した。
- ⑩ 26日、米第1四半期国内総生産(GDP)・速報値が前期比年率+2.5%と予想(+3.0%)を大きく下回ったことを受け、ドル/円は大きく値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

今月のポイント

4月のドル/円相場は92.56～99.94円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.4%の上昇(ドル高・円安)となった。この月は、月初に日銀が市場の予想を大幅に上回る「質的・量的緩和」を行ったことを受け、円の先安感が急速に意識され、ドル/円は上昇した。しかし、100円付近の売りが厚かった上、米国の量的緩和(QE)の早期縮小・停止観測が後退したことからドル買いが入りにくく、11日、22日、24日と3度100円突破を試して失敗した格好となった。

目下のところ、米国のQEの早期縮小・停止に対する思惑は一時期ほど強くない。ただ、一時期前のめり気味で思惑が強まっていた反動から、4月後半以降はQEの長期化を示唆するような「米経済指標の弱い結果」などの材料により強めに反応する様子も見られている。5月も、4月30日～5月1日の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が出て各メンバーの見解の変化を確認するまで、しばらくこの流れが続く可能性がある。また、日銀については、現状のところ「しばらくは追加緩和はないだろう」との見方が広がっており、やや日本サイドの材料では動きにくい状態になってきていると見られる。つまり、よほど米国景気が強気な見方に転換するような材料が連発しない限り、ドル/円は4月のような堅調さを取り戻すことは難しそうだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 95.00～100.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

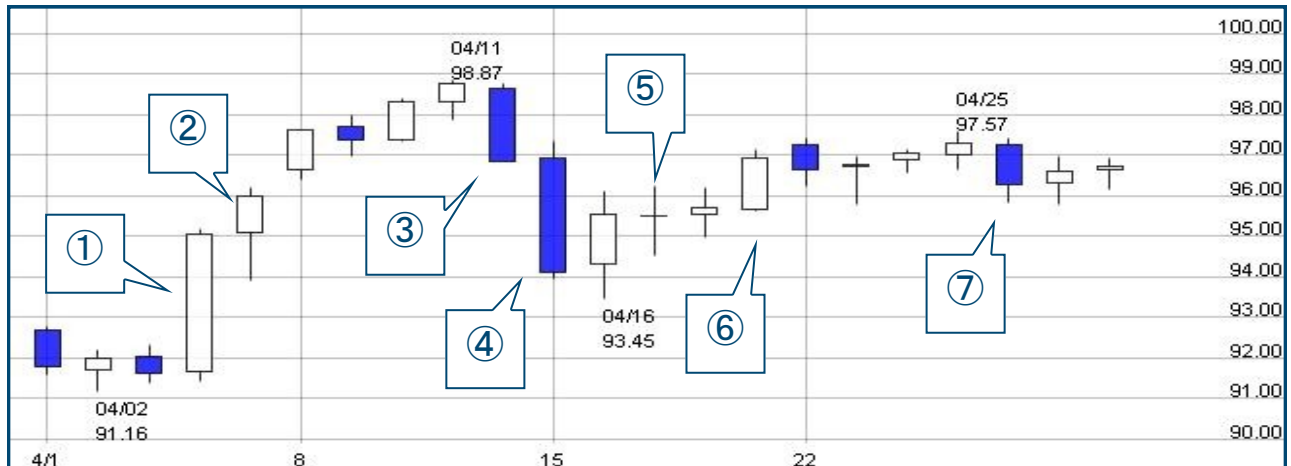
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(水)	4月米ADP全国雇用者数		4月米消費者物価指数
	4月米ISM製造業景況指数		5月米フィラデルフィア連銀景況指数
	FOMC政策金利発表	5/17(金)	3月日機械受注
5/2(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月3・4日分)		5月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	3月米貿易収支	5/22(水)	4月日通関ベース貿易収支
5/3(金)	4月米雇用統計		FOMC議事録(4月30日・5月1日分)
	4月米ISM非製造業景況指数	5/23(木)	5月日金融経済月報・基本的見解
5/10(金)	3月日経常収支	5/24(金)	4月米耐久財受注
	3月日貿易収支	5/27(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4月26日分)
5/13(月)	4月米小売売上高	5/28(火)	5月米リッチモンド連銀製造業指数
5/15(水)	4月米鉱工業生産		5月米消費者信頼感指数
	5月米ニューヨーク連銀製造業景況指数	5/30(木)	第1四半期米GDP・改定値
5/16(木)	4月米住宅着工件数		5月米シカゴ購買部協会景況指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	92.68円	98.87円	91.16円	96.73円



①	4日、日銀は黒田新総裁の下で初となる金融政策決定会合を開き「長期国債の月間の購入額をグロスで4兆円から7兆円へ変更。さらに対象期間は40年債まで」「長期国債は年50兆円ペースで増額し、2013年末140兆円、2014年末190兆円(2012年末残高実績:89兆円)とする」「上場投資信託(ETF)は年間1兆円増額、不動産投資信託(REIT)は年300億円増額」「マネタリーベースは2013年末に200兆円、2014年末に270兆円になる見通し」等とする「質的・量的緩和」の導入を発表した。市場の想定を上回る内容の「異次元緩和」に円売りが活発化すると95円台へ大幅に上昇した。
②	5日、加3月雇用統計が、失業率7.2%、雇用者ネット変化5.45万人減といずれも予想(7.0%、0.65万人増)より大幅に弱い結果となった事を受けてカナダドル売りが強まった。さらに同時刻に発表された米3月非農業部門雇用者数が予想を下回る増加幅となりドル/円が下落した事もあって93.90円まで下落した。しかし、前日の日銀による「量的・質的緩和」を受けて円の先安感が強く、売り一巡後は買戻しが優勢となった。NYダウ平均が引けにかけて下げ幅を縮小した事も支援材料となり96.22円まで値を戻した。
③	12日、金や原油などの資源価格が大幅に下落(主要国でインフレ懸念が大幅に後退する中、ファンド勢の換金売りがストップスを誘発したと見られる)すると、資源国通貨が軒並み下落。カナダ/円は96.85円まで下落した。
④	15日、中国第1四半期国内総生産(GDP)が前年比+7.7%と市場予想(+8.0%)を下回る伸びにとどまった事などから金や原油が続落。さらに、NY市場クローズ間際にボストンマラソン会場付近で2度の爆発が起きた事が報じられるとNYダウ平均が急落するなどリスク回避の動きが加速した。これらを受けてカナダ/円は終日軟調に推移し、93.94円まで、3円以上の大幅な下落となった。
⑤	17日、カナダ中銀(BOC)は政策金利の据え置きを発表。同時に発表した声明の内容も「現在の著しい金融刺激は当面適切な公算が大きい」とした上で「その後は一部(措置の)緩やかな引き揚げが必要になる可能性が高い」と、これまでのスタンスを維持した。しかし、2013年の成長率見通しを1.5%に(1月時点:2.0%)引下げた事が嫌気されてカナダドル売りが強まると95円を割り込んだ。
⑥	19日、G20財務相・中央銀行総裁会議を前に麻生財務相が「日本の政策に対して異論は出なかった」などと発言すると円売りが優勢となった。さらにG20が「日本の最近の政策はデフレ脱却と国内需要支援を目的とするもの」などとする声明を採択して終了するとカナダ/円は97.14円まで上昇した。なお、この日発表された加3月消費者物価指数は前年比+1.0%と予想(+1.1%)を下回ったが反応は薄かった。
⑦	26日、日銀が全会一致で金融政策の現状維持を決定すると円を買い戻す動きが強まった。さらに、米第1四半期GDPが前期比年率+2.5%と事前予想(+3.0%)を下回り、ドル/円が97円台に下落するとカナダ/円も96.85円までつれ安となった。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今月のポイント

4月のカナダ/円相場は91.16～98.87円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.4%の上昇(カナダドル高・円安)となった。4日に発表された日銀による「量的・質的緩和」はその効果の大きさから「バズーカ砲」と呼ばれるほどであった。「バズーカ砲」による円安の衝撃は翌日のカナダ雇用統計の弱い結果を完全に覆い隠してカナダドル高・円安を進行させ、カナダ/円は11日には2008年10月以来、約4年半ぶりの高値となる98.87円まで上昇した。しかし、12日から15日にかけて、金や原油などの資源価格の大幅下落や中国成長率の鈍化、ボストン・テロ騒動などのショックが重なり、大きく上げ幅を縮小。中旬以降は資源価格の戻りと歩調を合わせるように反発したものの、26日の日銀金融政策決定会合などを受けて円安の勢いが鈍ったために、カナダ/円の戻りは限定的となり、96円台で4月の取引を終えた。

さて、5月は日銀の追加緩和など追加的な円安材料は見込みにくいと見られ、米国を含めた北米経済の状況がカナダ/円の相場展開のカギを握る事になる。カナダと米国は貿易上の結び付きが強く同一経済圏を形成している事から米国景気の動向がカナダドル相場に与える影響は大きい。加4月住宅着工件数(8日)や加4月雇用統計(10日)など、カナダ経済指標への注目は当然として、米国の経済指標にも注目しておきたい。4月に発表された米経済指標は予想を下回るものが目立ち、米国景気の回復ペースに鈍化の兆候が見られただけに、月初に立て続けに発表される米4月ISM製造業景況指数(1日)、米4月雇用統計(3日)、米4月ISM非製造業景況指数(3日)などの結果が注目されよう。また、米国株式市場の格言として「Sell in May and go away」とされるように5月は株安が進みやすい時期でもある。上記の米経済指標に弱い結果が目立った場合は株価動向に注意が必要だろう。(神田)

(予想レンジ:93.50～99.80円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(水)	4月米ADP全国雇用者数	5/16(木)	4月米住宅着工件数
	4月米ISM製造業景況指数	5/17(金)	3月加消費者物価指数
	米FOMC政策金利発表		3月米シンガン大消費者信頼感指数・速報値
5/3(金)	4月米雇用統計	5/22(水)	4月本邦通関ベース貿易収支
	4月米ISM非製造業景況指数		日銀金融政策決定会合(21日～発表)
5/6(月)	3月加住宅建設許可		3月加小売売上高
	4月加Ivey購買部協会指数・季調済		FOMC議事録(4月30・5月1日分)
5/8(水)	4月加住宅着工件数	5/28(火)	5月米消費者信頼感指数
5/9(木)	4月中国消費者物価指数	5/29(水)	BOC政策金利発表
	3月加新築住宅価格指数	5/30(木)	第1米四半期GDP・改定値
5/10(金)	4月加雇用統計		第1四半期加經常収支
5/13(月)	4月米小売売上高	5/31(金)	第1四半期加GDP
5/15(水)	4月米鉱工業生産		3月加GDP

巻頭の特記事項を必ずお読みください。